

機関番号：22604

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2007～2010

課題番号：19320003

研究課題名（和文）ギリシャ政治哲学の総括的研究

研究課題名（英文）A Research for Greek Political Philosophy

研究代表者

加藤 信朗（KATO SHINRO）

首都大学東京・都市教養学部・名誉教授

研究者番号：60083200

研究成果の概要（和文）：

古典期ギリシャにおける政治哲学の三大著作（プラトン『国家』篇、『法律』篇、アリストテレス『政治学』）は、視点や方法はそれぞれ異なるものの、人間的生の目的である「人間性」の本質とその政治的実現手段を共通して追求するものである。その政治理念としての普遍性は、古代後期や中世を経て近現代にいたるその後のヨーロッパ世界に多大な影響を与えただけでなく、アジアを含む人類の共生という問いにも示唆を与えるものであることが判明した。

研究成果の概要（英文）：

The three main works of political philosophy in ancient greek thought, namely, Plato's Republic, Laws, and Aristotle's Politics, turns out to be the ones that have the common aim to investigate what is the humanity as a ultimate end of our life and how to achieve it at political level, though their views or methods are quite different. This universal ideal of politics not only has a great influence on the later European world, but also gives suggestions of how we human beings live together.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	6,100,000	1,830,000	7,930,000
2008年度	2,900,000	870,000	3,770,000
2009年度	2,800,000	840,000	3,640,000
2010年度	2,400,000	720,000	3,120,000
総計	14,200,000	4,260,000	18,460,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学、哲学・倫理学

キーワード：哲学原論・各論

1. 研究開始当初の背景

プラトン『国家』篇、『法律』篇、アリストテレス『政治学』は、古典期ギリシャにおける政治哲学の三大著作とされる。これらは、従来、個々別々に研究される傾向にあったが、三者の関係を総合的に捉える試みが十分なされてきたとは言いがたい。この欠点を補い、総合的視点を得るには、哲学はもとより、歴史、政治、文学など、幅広い領域からの研究者の協力と、学際的な視点が求められる。本

プロジェクトはこのようにして企図された。

2. 研究の目的

(1) 本研究は、上述の三大著作を主な研究主題とする。まず、それぞれの固有性を明らかにすると同時に、それらの間の異同をその構成上、内容上の両観点から攻究し、これら三大著作によって作り上げられている古典期におけるギリシャ政治哲学の全貌、さらにそれが人類一般の平和なる共生の秩序の構築

に関して、いまなお有する「理念」としての普遍的意義を明らかにする。

(2) ついで、これら三大著作が後代に対して、それぞれの時代、それぞれの地域で、この三大著作のそれぞれが個々にどのように受容され、また、それぞれの時代の政治理念としてどのような影響を与えたのかの仔細を精細に検討することを目指す。

(3) さらに、東アジアから見るという視点も加え、「ヨーロッパ中心主義」のもたらす問題点についてもあわせて考究する。西欧における「国民国家」の成立など、19世紀から21世紀にいたる歴史的状況と政治理念の細密な検証を行う。

3. 研究の方法

(1) 二つの研究グループを編成し、それぞれの研究課題を研究すると同時に、両研究グループは合して全員で、本研究主題全体に共通する研究課題を攻究する。研究代表者はこれらすべてに加わり、全体を総括する。

グループ(A)(三大著作の関連の研究グループ)は、プラトン『国家』篇、『法律』篇、アリストテレス『政治学』三著作の関連および三著作全体を見渡す全体的視界を明確化する。

グループ(B)(三大著作の先行思想と後代への影響の研究グループ)は、三大著作を準備する先行思想および三大著作の後代の政治思想への影響を攻究する。また、両グループは合同して共通の課題を攻究する。

(2) 研究代表者、研究分担者、連携研究者全員による合同研究集会を、毎年定期的に開催し、意見交換を行う。

(3) 海外共同研究者の招聘および海外出張、資料の収集を通じて、プラトン、アリストテレスの政治理念が今日に持つ意義をグローバルな視点から究明。本研究の遂行に有益な示唆と大きなパースペクティブを得る。

4. 研究成果

(1) 古典ギリシャにおける政治哲学の三大著作が作り上げた共通の政治理念は、人間の「生きること」の目的である「人間性(humanity)」にある。魂の諸部分とのアナロジーによる国家構造の分析やいわゆる哲人王思想(『国家』)、「内乱」という視点から構築された法制論(『法律』)、人間の自然に根ざして企図された理想の国制論(『政治学』)。このように視点は多様であるが、これらの著作はどれも、生の目的たる「人間性」とは何であるのか、また、これを達成するために不可欠な手段が何であるかを解明しよ

うとした。その基盤には、国家の全成員が共有すべき「教養」として、「美(kalon)」「正(dikaion)」「善(agathon)」に集約される「人間の共同性(コイノーニア)」への視点があるとの結論に達した。

(2) 三大著作を取り巻く状況としては、ギリシャ詩(ホメロス)における「正義」概念、アリストファネスに見られる社会モデル、リュシアスの弁論術など、同時代に近い段階での影響関係も見られるが、後代になると、三大著作の影響は顕著となる。ヘレニズム、ローマ、イスラムはもとより、中世(トマス・アクイナス等)を経て、ホップズ、ルソーといった近代の政治思想にいたるまで、ギリシャ政治哲学の受容と展開は、重層的・多面的に展開する。これは、「人間性」という共通不変の理念が、豊かな哲学的基礎に支えられて、ヨーロッパ政治思想を貫いてきたことを意味することが確認された。

(3) 三大著作が提示した普遍的な政治理念は、ヨーロッパ世界のみならず、アジアを含む全地球の人類という地平においても、「人と人との公共性」という点で示唆を与えるものであることが確認された。それは、多元的な文化伝統に担われながらも共生しあう私たちの現代社会にとって有効な指針を与える。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計80件)

- ① 加藤信朗, プラトン哲学の現代的意義—プラトン『ポリテイア』を中心に(基調講演・第9回プラトン・シンポジウムについて), 『学術の動向』SCJフォーラム, 2011-1号, 2011, 8-13頁, 査読無.
- ② 岩田靖夫, アリストテレス政治思想の現代的意義—プラトン『国家』の思想との対比において, 『学術の動向』, 2011-1号, 2011, 28-35頁, 査読無.
- ③ 大芝芳弘, キケロー『国家論』へのプラトン『国家』の影響—「洞窟の比喩」との関連を中心に—, 『理想』, 686号, 2011, 83-99頁, 査読無.
- ④ 荻原理, ジョヴァンニ・フェラーリの『ポリテイア』解釈の一端, 『理想』, 686号, 2011, 24-35頁, 査読無.
- ⑤ 中畑正志, アリストテレスの言い分—倫理的な知のあり方をめぐって, 『古代哲学研究』, 42号, 2010, 1-30頁, 査読有.
- ⑥ 桜井万里子, オルフェウスの秘儀と古典期のアテナイーデルヴェニ・パピルス文書を手掛かりに—, 西洋古典学研究, 58,

- 2010, 1-11 頁, 査読有.
- ⑦ 加藤信朗, The Bodily Nature of Human Being and the grasp of the genuine Nature of the World, 宗教と文化, 26 号, 1-13 頁, 2008, 査読無.
- ⑧ 内山勝利, 英知と学知との間: 古代ギリシア哲学が求めたもの, 東京外国語大AA 研究所『総合人間学叢書』, 4 号, 2008, 61-66 頁, 査読無.

[学会発表] (計 5 1 件)

- ① 川出良枝, 「法の支配」と自由 — フランスを中心として, 近代思想研究会, 2010, 11. 6, 慶應義塾大学.
- ② 加藤信朗, プラトン哲学の現代的意義— プラトン『ポリテイア』を中心に (基調講演・第 9 回プラトン・シンポジウムについて), 第 9 回国際プラトン・シンポジウム, 2010. 8. 7, 慶應義塾大学 (三田キャンパス).
- ③ 荻原理, The Choice of Life in the Myth of Er, International Plato Society, 2010. 8. 6, 慶應義塾大学 (三田キャンパス).
- ④ 加藤信朗, Introductory Remarks: Plato and Greek Philosophy in the Contemporary World, The 22nd World Congress of Philosophy, 2008. 8. 5, Seoul National University.

[図書] (計 4 7 件)

- ① 甲斐博見, 知泉書館, ソクラテスの哲学— プラトン『ソクラテスの弁明』の研究, 2011, 356 頁.
- ② 岩田靖夫, 岩波書店, アリストテレスの政治思想, 2010, 325 頁.
- ③ 桜井万里子, 中央公論新社, 古代ギリシアの女たち アテナイの現実と夢, 2010, 294 頁.
- ④ 神崎繁, 岩波書店, 魂 (アニマ) への態度— 古代から現代まで (双書: 哲学塾), 2008, 224 頁.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

加藤 信朗 (KATO SHINRO)
 首都大学東京・都市教養学部・名誉教授
 研究者番号: 60083200

(2) 研究分担者

甲斐 博見 (KAI HIROMI)
 首都大学東京・人文科学研究科・教授
 研究者番号: 90091230

大芝 芳弘 (OSHIBA YOSHIHIRO)
 首都大学東京・人文科学研究科・教授

研究者番号: 70185247

金子 善彦 (KANEKO YOSHIHIKO)
 首都大学東京・人文科学研究科・准教授
 研究者番号: 90278309

中畑 正志 (NAKAHATA MASASHI)
 京都大学・文学研究科・教授
 研究者番号: 60192671

内山 勝利 (UCHIYAMA MASATOSHI)
 京都大学・文学研究科・名誉教授
 研究者番号: 80098102

岩田 靖夫 (IWATA YASUO)
 東北大学・文学研究科・名誉教授
 研究者番号: 30000574

荻原 理 (OGIHARA SATOSHI)
 東北大学・文学研究科・准教授
 研究者番号: 00344630

桜井 万里子 (SAKURAI MARIKO)
 東京大学・人文社会系研究科・名誉教授
 研究者番号: 90011329

川出 良枝 (KAWADE YOSHIE)
 東京大学・法学研究科・教授
 研究者番号: 10265481

神崎 繁 (KANZAKI SHIGERU)
 専修大学・文学研究科・教授
 研究者番号: 20153025

金澤 修 (KANAZAWA OSAMU)
 東京学芸大学・教育学部・研究員
 研究者番号: 60524296

堀江 聡 (HORIE SATOSHI)
 慶應義塾大学・文学部・教授
 研究者番号: 40238788

河谷 淳 (KAWATANI ATSUHI)
 駒澤大学・総合教育研究部・准教授
 研究者番号: 60327749

(3) 連携研究者

天野 正幸 (AMANO MSAYUKI)
 東京大学・人文社会系研究科・教授
 研究者番号: 40107173

栗原 裕次 (KURIHARA YUJI)
 東京学芸大学・教育学部・准教授

研究者番号：40282785

土橋 茂樹 (TUCHIHASHI SIGEKI)
中央大学・文学研究科・教授
研究者番号：80207399

清水 哲郎 (SHIMIZU TETSURO)
東京大学・人文社会系研究科・教授
研究者番号：70117711

竹下 政孝 (TAKESHITA MASATAKA)
東京大学・人文社会系研究科・教授
研究者番号：30163398

一ノ瀬 正樹 (ISHINOSE MASAKI)
東京大学・人文社会系研究科・教授
研究者番号：20232407

桑原 直己 (KUWABARA NAOKI)
筑波大学・人文社会科学研究科・准教授
研究者番号：20178156

佐野 好則 (SANO YOSHINORI)
国際基督教大学・教養部・上級准教授
研究者番号：50295458

金山 弥平 (KANAYAMA YAHEI)
名古屋大学・文学研究科・教授
研究者番号：00192542